

中頭指導行政の基本方針
重点目標

最多・最大の最高を追求する中頭教育の創造
～地域に根ざし、共に子供の育ちを保障する魅力ある学校づくり～

育成を目指す資質・能力
○実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得
○未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
○学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養

重点事項「わったーわらび」の学力保障と成長保障

令和5年度状況

【小学校】
○全国学力・学習状況調査において、平均正答率が国語は2.2P、算数は5.3P、全国平均を下回っているが、国語は全国差は縮まってきている。
○沖縄県諸調査において、6学年は3学年からの4年間、国語、算数とも県平均正答率とほぼ同等である。
【中学校】
○全国学力・学習状況調査において、平均正答率が国語は6.4P、数学は12.4P、英語は11.1P全国平均を下回っており、県平均においても下回っている。特に、数学は全国との差が大きい。
○沖縄県諸調査において、中3学年は小3学年からの7年間、県平均正答率との差が徐々に開きつつある。

長期目標：持続可能な社会の創り手となる幼児児童生徒の育成

総括目標：幼児児童生徒一人一人に「生きる力」の基盤となる新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力を育む。

基本方針

- 1 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養う。
- 2 個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。
- 3 言語活動など学習の基盤となる活動の充実に努める。
- 4 家庭との連携を図りながら学習習慣が確立するよう配慮する。

取組事項

- 1 日常化する(質的授業改善) 【方策1】
- 2 そろえる (組織的共通実践) 【方策2】
- 3 ささえる (発達の支援) 【方策3】
- 4 見通す (学校組織マネジメント)【方策4】
- 5 つなぐ (学校連携・地域連携) 【方策5】

学校の取組

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実



- 1 質的・能力を育む授業改善
○学習の基盤となる資質能力の育成(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等)
○現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成(多様性の尊重、協働性の重視等)
- 2 学びの質を高める授業改善・学校改善を図る
○学習評価の改善・充実
○言語能力の育成と言語活動の充実

- 3 支持的風土のある学校・学級経営
○全職員で児童生徒の状況の評価・分析・改善策定
○学級活動、児童会生徒会活動の充実
- 4 カリキュラムマネジメントの充実
○校内研究体制の充実
○学力向上年間サイクル×2による取組
○諸調査を基にしたRPDCAの円滑化

学校の活性化に効果の期待できる取組

- 1 校長講話(めざす姿の共有)
- 2 指導案作成と授業実践
- 3 個別最適な学びの充実
- 4 五者会等へ学校事務職員が参加
- 5 学校評価の分析・活用
- 6 校長による授業参観と助言
- 7 評価システム面談にてめざす姿等の確認
- 8 校内教育支援委員会の充実

家庭の取組

- 規則正しい生活リズムの確立
- スマホ、ICT機器の利用ルールづくり
- 学習習慣の確立
- ファミリー読書の推進

地域の取組

- 学校支援体制の構築
- ・地域学校協働活動推進員と地域連携担当教員との連携
- ・地域人材・バンクづくり、支援組織の充実
- 学校支援の取組
- ・学習活動の補助、読み聞かせ等

主体的・対話的で深い学びを促進する教師力

- 1 子どもの姿や発表を丁寧に見る、聞く(捉える)
- 2 子どもの思いや考えを理解する(解釈する)
- 3 本時のねらいとの関係を考える(照合する)
- 4 どのように振る舞うかを決める(判断する)
- 5 分かりやすく板書したり端的に発問したりする(振る舞う)

「学びの質」を高める「子供を主体にした」授業改善

	視点1 自己肯定感の高まり	視点2 学び・育ちの実感	視点3 組織的な関わり	改善ツール等
方策1 日常化する【質的授業改善】	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ○生徒指導の4つのポイントを生かした授業	○見通しを立て、振り返る学習活動		○授業における基本事項 ○単元・授業プランシート
方策2 そろえる【組織的共通実践】	○調査に基づく児童・生徒の実態認識を分析・共有	○単元を見通した授業改善	○子供の姿の見取りを活かす授業展開	○「問い」が生まれる日常的な授業モデル等 ○アセスメント調査等
方策3 支える【発達の支援】	○確かな児童・生徒理解 ○学びに向かう集団づくり	○教科横断的な学び等の指導形態の工夫 ○ICT、タブレット端末の効果的な活用		○児童生徒質問紙調査 ○不登校支援の手引き
方策4 見通す【学校組織マネジメント】	○教育課程と学校評価を関連付けて実施	○単元で付けたい力を児童生徒と共有	○学習指導要領の着実な実施を踏まえた指導計画の作成	○学力向上推進スクールプラン
方策5 つなぐ【学校連携・地域連携】	○各教科の特質に応じたキャリア教育の充実	○幼・小・中連携の充実	○地域教育資源の活用の推進	○キャリアパスポート ○学校運営協議会制度

市町村教育委員会の取組

5 学校・地域連携

- ①市町村の特色を活かした施策推進による学校づくり
 - ②キャリア教育の視点を踏まえた校種間連携強化
 - ③学力向上推進5か年プラン・プロジェクトIIの推進
 - ④学校・地域・家庭の互恵関係の構築
- ・学校支援訪問等の充実、授業改善アドバイザーの活用状況への指導助言・保護者や地域住民による教育活動への参画

カリキュラム・マネジメントを生かした自律的学校経営の推進

～ 社会に開かれた教育課程の実現 ～

学び合う教職員の資質・能力向上

「チーム学校」づくりの推進

中頭地区学力向上推進委員会【共通課題・共通実践事項】

- しっかり教える: モデリング(教えて)「価値」「形」
コーチング(考え、試行させ)「強化」「修正」
フィードバック(価値付ける)「勇気づける」
- じっくり考え、させてみる: 主体的な学びづくり 子供が学び合う授業づくり
「主体的・対話的で深い学び」
学習規律づくり よりよい学校・学級をめざす組織的な活動
「支持的風土の醸成」
- たっぷり価値づける: 子供自身が自分への信頼を高める「勇気づけ」
「ほめ言葉」
「承認」
自己肯定感の高まり

2020年代を通じて実現を目指す学校教育

育成を目指す資質・能力
自立・協働・創造
(自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造)

新たな時代における学びの姿
個別最適な学び ↔ 協働的な学び
一体的な充実

中頭指導行政基本方針 重点事項(検討中)
中頭型ウェルビーイングを目指して
「わったーわらび」の学力保障と成長保障
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
キーワード:「じりっ」「きょうどう」「そうぞう」